

平成 28 年 2 月 24 日

清水教之先生を偲んで

誘電・絶縁材料技術委員会

委員長 田中康寛

去る平成 28 年 2 月 17 日、名城大学理工学部教授の清水教之先生がご病気のためご逝去されました。享年 64 歳でした。なお、お通夜 (2/18)と告別式(2/19)は、ご遺族の意向により、自宅にて家族葬として、すでに終えられているとのことです。

清水先生は、1979 年名古屋大学大学院博士後期課程を修了し、名古屋大学工学部講師、助教授を経て、1999 年名城大学理工学部教授に就任されました。また、1981～1983 年にはカナダの NRC (National Research Council) で客員研究員も務められました。

名古屋大学在学中から、電気絶縁材料の高電界物性や絶縁破壊特性、特に交流電気トリ一の発生機構解明に関する研究を行い、その後、超電導電力応用やエネルギー環境材料の研究にも従事されました。また、これらの活動が認められ、1979 年には「極低温領域におけるポリエチレン中への電荷注入と電界発光」という論文で、電気学会の学術振興賞論文賞を受賞され、2008 年には IEEE (米国電気電子学会) の Fellow にもなられています。

研究以外の特筆すべきことは、IEC (国際電気規格) における国内外のご活躍かと思われまます。IEC TC112 (電気絶縁材料及びシステムに関する技術委員会) の国内委員会において長く委員長を務められ、委員長時代には委員会後に積極的に懇親会を開催し、委員会の活性化に努められました。また、IEC TC112 の WG8 (材料の諸特性に関するワーキンググループ) においては convener (議長) を務められ、多くの規格の制定や改定に携わり、その活動実績により TC112 の海外委員からも、厚い信頼を寄せられていたようです。

このような卓越した研究成果とご活躍に対し、電気学会の誘電・絶縁材料技術委員会は、平成 25 年 11 月に豊橋で開催された、第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムにおいて、清水氏に家田賞を贈りました。この受賞記念講演において、清水先生が、「私のような非才が家田先生の賞をいただくことに大変驚いている」との感想を、照れくさそうに述べられていたお姿が、先生のお人柄をよく表しており印象的でした。

個人的には、IEC TC112 WG8 において筆者が取りまとめた TS (技術仕様書) : IEC TS 62758 (Calibration of space charge measuring equipment based on pulsed electro-acoustic measurement principle) が 2012 年に発行されましたが、この TS を発行するに至るきっかけから、作成作業全般、仕上げまで、WG8 の convener である清水先生に大変お世話になりました。さらに、清水先生が健康を害されたため、筆者が WG8 の convener を引き継ぐことになりましたが、まだまだ、先生にはいろいろご指導いただかなければならないことが多いと思っただけに、非常に残念です。

最後に、先生の早すぎるご逝去を悼み、哀悼の意をささげるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。